

十一月二十六日

十三時NRT発のルフトハンザ七一五便でミュンヘン經由ヴェネチアへ。一人旅である。この忙しい時にと我ながら思うが、ヴェネチア国際大学に長期出張中のグライターに会う為である。必ず、俺もヴェネチアには行くから、だからグライター、ヴェネチアで連続講義たのむぜ。の強引な依頼の義理を果たすための浪花節の世界なのである。只今十三時四〇分エアークラフトは水平飛行になっている。考えてみれば今年には佐藤健の哀悼の年であったな。只今日本時間十六時前、ハバロフスクを過ぎて、いつもより北側のシベリア大陸上空を飛ぶと、先程機長のアナウンスがあった。いきなり、千葉の物件に関してアイデアが浮かび始めて、あわててスケッチブックをとり出す。日本時間十八時四〇分、怒るとスーパーキングコングみたいな巨人モンスターになるといって、三流香港映画みたいなアメリカ映画を見終わったところ。凄い映画があるものだ。ミュンヘン空港ドイツ時間十七時十五分着。ルフトハンザは遅れない。パスポート・コントロールを経て、三〇分過ゲートG6LH⁶182ドミテ航空のウェイティングラウンジへ。二時間弱のウェイティングである。夕方だと言うのに外は真暗だ。十九時二〇分過搭乗。双発のプロペラ機であった。これでアルプス越えられるのかね。二〇時迄飛ばず。結局ヴェネチアには三〇分遅れで着く。グライターが空港まで迎えに来てくれた。空港及び周辺は様変わりしていて、船着き場も失くなっているようだ。バ

スでグランドキャナルのロマーナへ。船に乗ってリアルト橋へ。中央市場の近くにグライターはアパートを借りているようだ。ニイチエはここに滞在していたとグライターは橋のたもとの何て事はないアパートに連れていった。ワーグナーもグランドキャナル沿いのコンドミニアムで死んだと言う。少し迷路を歩いて、まだ開いているレストランへ。観光客は一人も居ない。雨もシトシト降っていて、何だか日本の地方都市の路地裏を歩いているように良かった。パスタとパンと赤ワインの夜食。十二時に何処にあるのかも知れぬ新しくリノベーションしたホテルにチェックイン。設備は新しく、これ迄のヴェニスのホテルでは最良である。部屋にモジリアニの裸婦像の拡大コピーがかけてあって、これは趣味が悪い。何しろデケーの。ヘソの穴がゲンコツ位あるんだからシャワーして、頭も洗ってベッドに倒れ込んだ。

十一月二十七日

六時、眼がさめてしまう。持ってきたニイチエ、ツアラトウストラでも読んでみようか。七時過又眠り、結局十一時迄眠る。近くのテラットリアでカプチーノとクロワッサンを食べ、十二時半HOTELに戻る。十三時グライター来。二〇番の船着場から小さなボートでヴェネチア国際大学へ。小さな島全部がインターナショナル・ユニバーシティとユーロ職人大学とで占められている。少し前までは病院だったらしい。インターナショナル・ユニバーシティはまだ完全には動いていないが、ロケーションは独特だ。だって、小さなボートでしか辿り着けないのだから。ユーロの職人学校はよりユニークであるが、まだ学生数は少ないようで、スペースには随分ゆとりがあるように感じられた。この島は使い道がある。見学を終えて、ヴェネチア本島に戻る。船を乗り継いで

ペギー・グッゲンハイム・ヴェネチアへ。フレデリック・キースラーの展覧会を見る。小さな部屋の展示であったが、そのスケッチの一つ一つに感じ入った。フレデリック・キースラーは山口勝弘のキースラー論でしか知る事は出来なかったのだが、今日は初めてそのスケッチ、その他で直接に感じ、触れる事ができた。コレだけでもヴェネチアに来たか良かった。キースラーを見た後、グッゲンハイム・ペギー・ヴェニスを見る。モダン・アートの最良のモノがコレクションされている誠にユニークなスペース（場所）である。十七時頃見終る。その後、リアルト橋近くの酒場へ。グライターの案内でレストラン・マリオへ。良かった。十九時前、グライターの案内でレストラン・マリオへ。しかし、これが何とマリオちがいで、私の友人のマリオとは違っていた。それで、グライターのマリオは二〇時に開店だと言うので、近くのレストランでお茶をにごすかと言う事で動く。捜したレストランが、これがひどい処で、大学の学食以下みたいところで、さじを投げたワインだけ飲んで、食い物にはほとんど手をつけられず時をつぶす。それではやはり、グライターのマリオにもう一度行こうという事で、Gマリオに戻る。レストランのハシゴだ。ここはママア良かった。八〇才位のオーナーのおばあさんと意気投合して、色々話し込み、オバーちゃんが迷路を案内してくれて、近くのBarへ。看板も何も出ていないBarで、これは初めてヴェネチアの奥に入れたねと、グライターと思わず笑った。ウイスキーを一パイ飲んで、出る。サンマルコ経由で、二十二時過HOTELに戻る。今日はフレデリック・キースラーに会えたのが、何よりも収穫だった。

十一月二十八日

朝三時前目がさめてしまう。時差特有の眠りである。昨日のフレデリック・キースラーの展示を思い返している。ペギー・グッゲンハイムからの最初のキースラーへの手紙が印象的であった。キースラーの存在を彼女はどこかで知っていたのだ。それがキースラーの如き宇宙圏の才質に特有な送信力だったのだろう。九時身仕度を整える。今日も日の射さぬ曇天である。近くのテラットリアでカプチーノとクロワッサンの朝食を取り、少し海辺を歩き、十一時前にホテルに戻る。十一時グライター来。カルロ・スカルパの建築を案内してもらう。スカルパの小さな橋の、先の内庭から、真つ黒なヴェネシヤン・スタツコのエレベーターシャフト、及び、ひどく工芸的な庭・建築の数々。いいけれども解らない全く。スカルパを終えて、船でヴェネチア建築大学へ。アルド・ロツシの展覧会を見る。ロツシのドローイングは素晴らしいが、何の為にこんなモノを描いているのかが、解らない。昼飯はヴェネチア建築大学の近くですます。サンマルコ広場に戻り、買物を少し計り。リアルト橋近くまで歩きワインを少々。かなり疲労困ぱいした。立っているのも辛い位。時差の眠さも襲ってきて最悪の状況である。グライターと疲れながら座るところを探して流れ歩く。Bar、何件かはしご。十八時半ヴェネチア・インターナショナルスクール・デイーンのルカ氏とリアルト橋近くの広場で落ち合う。ワインBarでヴェネチア風のサンドイッチ&ワインを飲み、ルカ氏の自宅へ。一九四四年、カルロ・スカルパ設計の住宅である。これは驚きであった。眼に焼き付ける。ルカ氏の奥さんは今、ニューヨークに出掛けているのであったが、メンディーニと親戚であり、ルカ一族はスカルパのクライアントである。ヴェネチア有数のファミリーなのだろう。自宅をたっぷり案内してもらい、別れる。何処かでディナーにしようかと思っている内に、

偶然にレストラン・マリオに行き合う。レストランのオーナーと再会を喜び合う。聞けば二日前に私の姿を見かけて、いつ来るのかといぶかしんでいたと言う。マリオの味は格段に良くなっていた。グライダーにホテル近くまで送ってもらい二十二時二〇分ホテル帰着。メモをつけてベッドにもぐり込む。内容の濃い一日であった。ヴェネチアの狭い迷路から、星空が見えた。明日は朝から青空なのかな。二十二時四十五分休む。

十一月二十九日

朝三時半目が覚めてしまう。キャナルに面したテラスに出てみる。寒空に星が散っていて豪華だ。ヴェネチアで星空を見上げるのは初めてのよような気がする。シリウスが青白く大きく輝き、オリオンが傾いて起き上がるころだった。キャナルは静かに時間が停止しているようだ。犬が一匹狭い道に影を落としている。この町で近い未来仕事をする事ができるだろうか。十時グライダーが迎えに来て空港へ。素晴らしい青空でアルプスが遠くに見える。風は少し寒い。新しいヴェネチア空港のデザインは悪い。ひどく悪い。十二時五〇分LH¹⁸²ドロミテ航空時刻どおりにヴェネチア発。アルプスの上空五千米をミュンヘンに。ミュンヘン空港でビールを飲む。十五時五〇分LH⁷¹⁴でNRTへ。途切れ途切れに眠った。

十一月三〇日(日)

昼前NRT着。京成線で八幡へ。重い曇天である。昼過ぎ田谷に戻る。ウトウトと一日中眠る。イラクで日本人外交官2名射殺された。